

繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

Tel 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

出直し、希望の教え、

シリーズ「かしまの・かりものの理」を深く掘る

vol.9

「エンディングノートなんか

本当は書かなくてもいいんですよ」

四千件以上の相続に携わってきた「相続のプロ」がぼつりとつぶやいたその言葉に、私は驚いた。

◆エンディングノートを書けば安心？

先日、繁藤大教会主催で「終活・相続勉強会」を開催した。前半、相続に関する講座は相続のプロに頼み、後半は終活について私がそのコマを担った。

まずエンディングノートとは、これまでの人生を振り返りつつ、万が一に備えて、家族や友人に伝えておきたいことなどを書き留めるものだ。具体的な項目をあげれば、終末医療や葬儀、財産などについての希望を記す。

実際に自分もエンディングノートにとらめっこしてみてまず感じたのは、これは老若男女すべての方におすすめしたいということだ。いつ死が訪れるかわからないだけに、準備をするにこしたことはない。一方で、エンディングノートを書いてみて、私の

心に生まれたのは安心感ではなかった。それどころか「死にたくない」という気持ちが強くなったのだ。また自分だけでなく、仮に親がエンディングノートをちゃんと書いているからといって、いつ親を見送ってもいい。そんな気持ちにはとてもなれそうになかった。

死ぬのは嫌だ。身近な人が死ぬなんて考えたくもない。そう思うのは、別に私に限ったことではないだろう。そもそも、昔からこの「死」という問題に向き合うのが宗教の大きな役割だ。エンディングノートを書いたくらいで、そう簡単に割り切れるものではない。

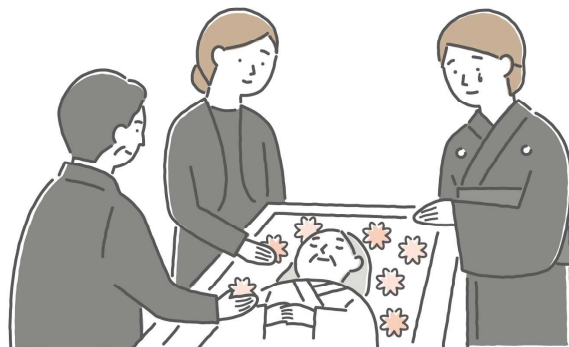
◆考えてもらいたい3つの質問

誰しも死ぬのは怖いし、嫌だ。

紀元前、中華統一をした秦の始皇帝はすべてのものを手に入れた。たった一つ、手にすることが叶わなかったのが不老不死である。始皇帝は永遠の命を求め、水銀を不老不死の妙薬と信じ、死を迎えた。医療技術が進んだ現代でも、本質的に老いには抗えない。

そこで皆さんに一つ目の質問だ。

「あなたは何歳まで生きたいですか？」



今、人生100年時代といわれる。しかしあるアンケートでは、100歳まで生きたいと答えた日本人は3割に満たなかった。アメリカや中国はその倍以上の方が100歳まで生きたいと思うと回答したそう。もちろん考え方や環境も違うので、一概にはいえないが、幸せという観点でただ長生きすればそれでよいということではなさそう。

人はいつか死ぬ……。この現実を変えられないことはわかった。じゃ次の質問をしたい。

「あなたはどんな最後を迎えたいですか？」

もちろん死は老いや病気に限らない。例えば、最近熊に関するニュースを毎日のように見聞きする。死者も多数でているが、自身は熊がほばいない四国に住んでいるので、どこか遠くの人ごとと思っている節があった。しかしもし自分が、あるいは身近な人がある日突然、熊に襲われて死んでしまった、と想像してみたら急に胸が張り裂けそうになった。考えたくもない。

歳を重ねて老衰で定命を全うする方もいれば、若くして死ぬ方もいる。災難にあつて突然死ぬ方もいる。あつてはならないが自死を選ぶ方もいる。

何歳まで生きるのか、どうやって死ぬのか。私たちはこれらを本質的には選ぶことができない。そのことを前提に、最後の質問をしたい。

「仮に、もし明日自分が死ぬとしたら、やり残したことはありますか？大切な人に伝えたいことはないですか？」

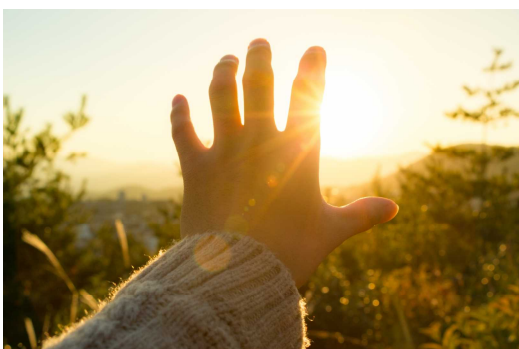
◆ 悲しみから希望へ

天理教では、人の死を「出直し」という。一人ひとりの身体は親神様からの「かりもの」であり、いつかはその身体をお返しする時がくる。しかし、身体をお借りしている主体の「魂」は、滅びることはなく生き通しである。この命は今世だけ、一代限りではなく、また来世へ生まれかわってくる。教祖は出直しのことを、「古い着物を脱いで、新しい着物と着かえるようなもので」と教えられた。

死は終着点ではないということだ。列車に例えると、終着駅であつたとしても時間が経てば、新たな列車がやってくるのと似ている。行き止まりである近鉄天理駅だって、到着して人が降りたら、また新しい人が乗車していく。

加えて、出直すすべてがゼロになり、リセットされるということではない。その人生において尽くした理は親神様がちゃんと受け取ってください。つまり来世においても魂に理が持ち越されていく。また残された人々、教会にもちゃんとその理は残っていく。ここでいう理は「種、徳、いんねん」と言い換えるといいだろう。そして尽した理とは、親神様に真心を尽くし教えをまもること。人のため、人をたすけるために心を尽くしたことである。

出直しは終わりであり、再出発でもある。途切れるわけではなく、未来へつながっている。もちろんすぐ簡単に割



り切れない境遇に立たされることもあるだろう。それでも必ず、そこには親神様の親心が込められている。悲しみから希望への転換。これが出直しに込められた本当の神意ではないだろうか。単に「死」を言い換えた言葉が「出直し」である、という短絡的なことではないのだ。

人間は一代と思うから、身上事情あれば頼り無いと思う。(中略)
短いと思わねえ。長いという、長い心持たにやねえ。長いという心の中に、身上自由なあとと思う処、取り直し。末代という理は、これより無い程に。皆生まれ更わりくと言う。よう聞き分け。この理分かれば、日々苦しみに楽しみある。(中略) 運び損にならん程に、尽し損にならん程に。末代の理に受け取つてある程に。(おさしづ 明治34年9月27日)

◆ エンディングノートなんか書かなくていい

冒頭の一言、「相続のプロ」が言つた真意、理想像はこうだ。

○ いくらお金持ちだって、死ぬときに財産を来世へ持つていくことはできない。あらかじめ遺族に対し遺産の分配、整理を考えておいたらよい。

○ 残された家族、親戚はみな仲睦まじく、揉めることなどはない。

○ 普段から身近な人へ大切なことはしっかり伝えてきた。やり残したことはない。



お道の偉大なる先人先輩は出直しに際し、旅立つがごとく「あとはみんな頼んだよ」といつて安心して出直していったと聞く。こういう死を迎えることができれば、どんなに良いだろうか。まさに終わりであり、再出発でもあると深く頷くところである。

先述の「何歳まで生きたいか?」、「どんな最後を迎えたいか?」という質問は、生きる喜びを感じることの大切さ、生かされている今日一日の価値を気づかせてくれる。そして、死と向き合うことは「どう生きるか?」という大きな問いにつながる。

まさに今、身体をお借りし、生かされている我々にできることはシンプルである。心一つが我がのものであり、その心通りに親神様がすべて良いようにお見せ下さる。その心を教えにあわせ、一日生涯と念じて、陽気心で精一杯歩むことだけだ。

最後に、先日の「終活・相続勉強会」でお配りした天理教版のエンディングノート(お道のつなぐノート)を紹介して締めくりたい。このノートをきっかけに、出直し(つまり死と生)に向き合い、そしてこの信仰をどう未来につないでいくのかを一度考えてみてはいかがだろうか?



お道のつなぐノート

立教一八八八年十一月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男

【主教百八十八年 秋季大祭 祭文】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に
天理教繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。

親神様には紋型もない処からこの世、人間をお創め下され、天保九年十月二十六日旬刻限の到来と共に、教祖をやしるにこの世の表にお現れ下され、陽氣ぐらしの世界へむかうための御教えをお説き下さいました。
爾来、主教の元一日より百八十八年を数えます中に、どんな時も変わらず十全の御守護をはじめ、果てしなき親心をもってお見守り、お導き下さいます御慈愛の程は、誠に有り難く勿体ない極みでございます。私共は御厚恩を拝謝し、各々のお与え頂いた持ち場立場の上で、ご存命でお働き下さる教祖の道具衆として、至らぬながらもたすけ一条の御用につとめ励ませて頂いておりますが、わけても今日の吉日は、当教会にお許し頂く御祭日、主教の元一日の理を拝す日柄でございますので、只今からおとめ奉仕者一同、親の心に溶け込み、鳴物の調べも高らかに座りづとめ、てをどりをとめて、秋の大祭を執り行わせて頂きます。御前には今日を樂しみに寄り集ったようばく、信者たちが共におうたを唱和して喜びの心もひとしおに、日頃賜る厚き御恵みに御礼申し上げ、尚も変わらぬ親神様の御守護にお縫りする眞実の状をも御覧下しまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。また本日は、大教会世話人の諸井道隆先生にお入り込み頂き、後ほど御講話を頂戴いたします。ぢばの声をしつかりと受け取り繁藤大教会の理に繋がるお互いが、旬をはずすことなく、日々誠眞実の種をまくことによつて、一粒万倍の姿をお見せ頂けるよう、年祭活動残り三ヶ月勇みを絶やさずにとめ切る決心でございます。何卒、届かぬところは幾重にもお仕込み下さいまして、末代続いたすけ一条の歩みを、着実に進めさせて頂けますよう、また世界一れつ兄弟姉妹、互い立て合ひ助け合ふ神人と樂の陽氣づくめの世へと立て替わりますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《繁藤大教会 立教百八十八年秋季大祭 祭典役割》

祭主	指図方	属者	属者	賛者	賛者		男			女			地方			笛	チャンポン	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓	神殿講話
大教会長	坂本久徳	佐藤栄治	藤田一憲	田村聡佐	村上由高	座りづとめ	大教会長	前大教会長	田村辰久	大教会長夫人	前会長夫人	黒石伸子	坂本久徳	河村道興	田村久徳	宮田孝道	藤田憲明	為田紀久男	村上英士	為田基紀	佐藤栄治	佐藤順子	藤田洋美	村上美栄子	世話人 諸井道隆 先生
八足出し						てをどり前半	藤田一憲	空閑一教	伊藤正福	河村美佐子	宮田まゆみ	武市まち子	空閑一将	川田節夫	佐藤節幸	空閑慶吾	佐々木恵	安部道郎	田村聡佐	立花真一郎	田村省悟	坂本喜子	田村睦美	佐藤文代	為田賢子
田村聡佐	立花真一郎	佐々木恵	田村省悟	村上由高	空閑慶吾		てをどり後半	坂口正幸	坂井博文	秋月英希	村上綾	空閑真理代	阪本喜代子	宇山基紀	前田豊	佐藤一三	宮田教一	渡辺道仁	村上由高	黒河明大	土居道久	立花孝一	田村育与	空閑都	

【神殿講話】大教会長

(前席 村上美栄子)

【しげとうtime おかえり講話】

(10月) 坂本喜子

【教会長神殿当番】

(11月) 百生・角野

(12月) 城幡・未見

【詰所教養掛】

(11月) 前半 為田基紀

後半 村上英士

女性 空閑さとの

補佐 立花孝一

(12月) 前半 空閑一将

後半 田村久徳

【詰所事務当番】

(11月) 星野善胤

(12月) 秋月英希

【ひのきしん】

○婦人会詰所ひのきしん

11月25日～26日 (藤広1名)

※ひのきしんの募集

今月、右記以外にもう1名ひのきしん者を募集いたします。おつとめいただける方は大教会までご連絡ください。

【婦人会】

○みちのだいおはなし会

日時 11月26日(金) 午後1時～2時

場所 東講堂

テーマ 「日々感動 今日笑顔で」

高橋委員部会員 西田伸代 先生

テーマ 「はい」に勝る返事なし

「笑顔」に勝る化粧なし」

都賀支部部会員 老沼 早先生

※託児はありません。

○こかん様につづく会 (繁藤支部)

去る10月25日、繁藤詰所にて「こかん様に続く会」を開催いたしました。当日は、支部長の話、神名流し、お楽しみ行事などの時間をもち、集まった若い仲間同士が充実した時間を過ごすことができました。



○ひながた勉強会 (繁藤支部)

※最後の回になります。

日時 11月25日(火) 午後1時半～4時

場所 繁藤詰所4階大広間
対象 どなたでもご参加ください。
たくさんの方のご参加お待ちしております。

【青年会】

『第99回 天理教青年会総会』報告

繁藤につながる青年会員で青年会総会に参加させて頂きました。総会後神殿にて皆さんに書いていただいた「おたすけ願」のお願いづとめを揃ってつとめさせて頂き、その後女子青年さんと合同で西境内地にてひのきしんさせて頂きました。

夜は詰所の駐車場にて、女子青年さんと合同の懇親会をさせて頂きました。



青年会総会



繁 金 分 教 会

仕切り月の予定(11月)

3日	新居浜分教会
6日	高 阪分教会
8日	南田川分教会
10日	赤池分教会
10日	新立分教会
15日	富久地分教会
16日	城幡分教会

最後の仕切り月の
祭典を日曜日に持
つてきたので普段
参拝に來れない遠
方の信者さんも参
拝に來て頂き、少
人数ながら賑やか
な祭典になりあり

【繁金】

【おさづけの理拝戴者(9月)】
直 属 奎 定 子

【初席者(9月)】
西田川 新 開 裕 美



長 濱 町 分 教 会



城 攝 分 教 会

がたく勤めさせていただきました。今後今いる少年
会の子供達が教会に繋がって足を運んでいただける
ようにしていきたいと思ひます。



こかん様に続く会

教祖140年祭 三年千日の活動方針

明日に希望を、 今日を陽気に

～ひながたを心に、プラスワンの誠真実を～

実践目標

教会に人をお連れし、たすかる道を伝えよう
誠の理を、日々に働かそう
おさづけの取り次ぎ、チラシ配りの推奨
天理カードの登録推奨（目標 10,000 人）

教えに親しみ、ひながたを心の頼りに明るく歩もう
信者の葉を毎日拝読する
ご守護に気づき、身近な人に信仰を伝えよう
お道と社会に貢献できるようぼくを育てよう

ふしから芽が出るご守護をいただこう
心を定め、日々の理づくり・徳積みに励もう
「声は肥」旬を外さないよう+1の声かけを
月次祭を賑やかに勤めよう（仕切り月の実施）



繁藤公式 LINE で講話やブログなどを配信しています。
ぜひご登録ならびにご紹介をお願いします。



天理教 繁藤大教会
SHIGETO